

月夜の浜辺

中原

中也

月夜の晩に、ボタンが一つ

波打ちぎわに、落ちていた。

それを拾って、役立てようと

僕は思ったわけでもないが

なぜだかそれを捨てるに忍びず

僕はそれを、たもたに入れた。

●書ける字はなぞりましょう。声に出して読みましょう。